

インターバンクの声（2016年3月29日）

欧州市場が引き続きイースター休暇で休場となる中、米個人消費支出が発表され、市場予想通りではあったものの0.1%増の小幅な伸びに留まったことでドルが売られた。週末には個人消費が上向きに回復したとして上方修正した第4・四半期GDPが発表されていたが、より新しい個人消費の数字が伸び悩んだとあっては仕方のないところだ。ただ主要通貨に対するドルの下落幅は30～40ポイント程度で、しかもニューヨーク市場の終盤には概ねその下げから回復している。それでも市場には再び米連邦制度準備理事会（FRB）の早期利上げ観測が後退したとの見方に戻っているようだが、今晚のイエレン議長の講演での発言内容や雇用統計の結果次第で見方もその都度変わってくるだろう。本邦の実需勢や資本筋にとっては、年度末ということもあって積極的な市場参入が出来る時期ではないが、昨日も見られたように仲値公示前後の予想しづらい値動きには注意が必要だ。今日も113円台後半になればドルを売りたい人が多い気がする。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。